

「グラスルーツ・アカデミー東北2017 in 岩手」 開催報告



「グラスルーツ・アカデミー東北」は、東北3県（宮城、岩手、福島）の次世代を担う女性たちが集い、学び合い、ネットワークを構築する場。2015年にスタートして以来のべ159名が参加。2016年からは託児を導入し、子育て中の女性が研修機会から排除されない場づくりを行っている。東北で4回目となる今回は、「チームをつくる」というテーマにフォーカスした。

アカデミーの三本柱

- 1 お互いの経験から学び合うため自分自身も貢献する
- 2 課題解決につながるスキルや具体策を持ち帰る
- 3 他地域での実践を視察し、自地域の課題解決に役立てる

日程 2017年10月27日(金)～29日(日)

参加人数 38人(スタッフ、子ども、関係者を含め)

参加女性18名／子ども6名／学生インターン 3名(協力:TOMODACHI)

主催 NPO法人ウィメンズアイ

協力 特定非営利活動法人JEN

後援 国連ウィメン日本協会

プログラム内容・スケジュール

1日目 盛岡市 南昌荘

12:30 オリエンテーション
13:15 チームビルディング 課題解決
16:30 コワーキングスペースarukokoへ
17:00 [レクチャー] 多様な行動特性
19:00 事務連絡、夕食、アカデミーのビジョン

2日目

6:30 朝食
9:30 オリエンテーション
9:45 参加者活動紹介
12:30 昼食
13:30 参加者活動紹介
15:00 [レクチャー] 暮らしのサポーターズ
17:00 終了
18:30 事務連絡、夕食

3日目 花巻市

6:30 朝食
9:00 花巻到着
[事例研究] まんまるママいわて
11:45 [事例研究] 花巻co-ba 花巻家守舎
12:30 昼食
13:20 3日間のふりかえり
15:15 終了、解散

講師



吉田和美
(株)Excellent
Organization
Development



吉田直美
NPO法人暮らしのサポーターズ
代表



佐藤美代子
まんまるママいわて
代表助産師



小友康広
(株)花巻家守舎 代表

グラスルーツ・
アカデミー東北
とは？

2015年3月、第3回国連防災世界会議のプレイベントとして、国際NGOホワイロウコミッション(NY)によるローカルで活躍する女性たち向けのエンパワメントプログラム「グラスルーツ・アカデミー」を、南三陸町で開催。その後それを日本とくに東北の被災3県にローカライズしたNPO法人ウィメンズアイのプロジェクト。福島、宮城、岩手の3県で順番に開催している。応募要件は30代以下の女性で、何らかの組織でローカルの活動を行っていること。2017年2月にはシアトル研修を実施。2018年2月にはロサンゼルス研修を予定。

2泊3日の「グラスルーツ・アカデミー東北2017 in 岩手」のプログラムは庭園の紅葉が美しい伝統的日本家屋「南昌荘」の畳敷きの大広間ではじまった。3日間のプログラムをレポートする。



1日目

10/27
(金)

オープニング、チームビルディング

受付をすませた順に昼食。顔見知りの人たちが中心に声をかけあって、あちこちで話の輪が広がる。参加者たちの期待が高まっているのがわかる。



◆マシュマロリバー〜チームビルディングに挑戦

食後に、プログラムがスタートした。今回のアカデミーのテーマ「チームをつくる」を3日間で深く理解するための導入として、まずはファシリテーターの吉田和美さんによるチームビルディングのワークがはじまった。名前を呼び合うアイスブレイクの後、2チームにわかれマシュマロに見立てた小さなマットの上から落ちないように声を掛け支え合いながらゴールまで移動するというゲームを行った。ルールを侵すと、罰として少しずつマットの数が減っていく。数回の試行ののちにやっと成功。



自分が貢献したとを感じるか、それはなぜか、グループごとに話す。場の状況がどう共有されたのか？どんな言葉が変化の契機になったのか？単なる遊びのようでいて実は深い。



次に行ったワークは、ボールを使ったタイムトライアル。チームの中でルールの解釈が進むごとに改善を繰り返し、驚くほどスピードが上がる。このチーム

でそれができた理由は何か？メンバー内に何が起こっていたのかを振り返り、同様の現象を活動の中に起こすにはどうすれば良いのか考える。

◆コワーキングスペース

arukokoにてレクチャー

盛岡の中心街まで移動し、人間の持つ行動特性について吉田和美さんのレクチャーを受け、自分がどの特性にあてはまるか自己診断。各特性がチームづくりにどう作用するか、グループで話し合いシェアした。



2日目

10/28
(土)

活動紹介、レクチャー

◆アカデミー参加者の活動紹介サーキット

短く、効果的に自分の活動を人に伝えるトレーニング。4カ所に設置されたブースで、1セット3分の活動紹介を4回連続で行う(聴衆・話者は入れ替わる)サイクルを回し、全員が活動紹介を行った。リピーターは確実にスキルをあげており、初参加のメン



バーにはたった3分でそれほどのことが伝えられるということが印象的だったようだ。



◆くらしのサポーターズ 吉田直美さんのレクチャー

生活困窮者支援に携わる中から、問題解決だけではなくゴールに「幸せ」を見据える重要性に気づいた吉田さ

ん。震災直後に立ち上げたNPO法人「くらしのサポーターズ」で、くらしの駆け込み寺「あすからのくらし相談室」を運営してきた。

今日の日本では自殺する人が毎年3万人、震災前の陸前高田市が毎年1つ消えていくペース。そんななか吉田さんが感じている、誰もが生きやすい地域、包摂する社会へ向かっていくために大事なものの見方について話していただいた。事柄に気を取られすぎて、心を満たすことが軽んじられていることに警鐘をならす。

最後に、会場の参加者とともに人を「責める」とはど

んな現象なのかを考え、それぞれの思いを言葉にしあった。



3日目

10/29
(日)

朝食後、花巻に向かう

◆事例研究1

講師：まんまるママいわて 代表助産師 佐藤美代子さん

アカデミーのスタート時から参加する佐藤さんに講師をお願いし、活動拠点である花巻市内のまんまるママいわて事務所を訪問。震災後に被災した妊産婦たちをケアする段階から、次第に活動を組織化し、岩手県初の産前産後ケアハウス「まんまるぽっと」開所に至るまでのプロセスをうかがった。人間関係での困難の連続、コミュニティ・オーガナイズングの手法を取り入れたチームづくりでの経験、そして「弱みを見せる」ことで身近な人たちとの関係性を結び直し、同志になっていく過程。笑いと涙を挟みながら、手のうち心のうちも隠さずシェアしてくれた佐藤さんの講義に、参加者の共感と尊敬が溢れていた。講義の後は質問や、それぞれの感じたこと、経験談が飛び交う熱のこもった時間となった。活動の先輩格であり身近な存在からの実感のこもった話に触発され、自らの状況を見つめ直すコメントも多く聞かれた。



◆事例研究2

講師：花巻家守舎代表 小友康広さん

花巻初のコワーキングスペース〈co-ba花巻〉へ。このビル1棟をリノベーションし運営管理すると同時に、駅前リノベーションまちづくりの最前線を率いる若き事

業経営者にお話を伺った。駅前のマルカン百貨店再生の事例は、実際に話を聞いてみると

思いもよらないプロジェクトだったことがわかる。道に人が歩いていなくてもいい。暮らす人が豊かな心を持ち、人口が減っても「挑む人」がいるのがいい町、豊かな町だと話す小友さん。自分ごととして「主役」となり事柄にあたる人が増えることが大事、との言葉に刺激をもらった。

◆振り返りの時間

ビル1階のラウンジにて昼食。いい雰囲気改装されている。食後は〈co-ba花巻〉に戻り、この3日間でそれぞれが何を得たのかを一人静かに振り返り、仲間とシェアする時間を持った。明日から日常へ戻ることによる不安だとの声に、ベテラン層から「大丈夫、絶対に元には戻らないから。自分では気づかなくても成長している」と勇気もらって終了した。





グラスルーツ・アカデミー東北 in 岩手を振り返って

佐藤美代子さん (まんまるママいわて) **研修の後は見える景色が違う**

机上で、会議で、組織のことをずっと考えているのに、体を使ったワークでは楽しく一気に理解が深まるのが驚きでした。研修の成果ってすぐ出るとはかぎりません、私は3年参加して今までの研修の成果が花開いたと感じています。研修から戻れば現実に戻って同じ悩みと向き合うけれど、絶対、同じではありません。悩みは尽きないけれど、新しい視点を知ってしまったら、見える景色が違います。

アカデミーは若い女性も参加しやすい料金で開催してくれていることが本当にありがたかったです。今回は講師もさせていただき、満を持して卒業だなと思いました。(談)

佐藤真紀さん (ふくしま30年プロジェクト) **確実に自分が強くなっている**

放射能測定と知識普及の活動を行っていますが、メンバーのほとんどは男性エンジニア。不安に思うママたちのニーズを汲むことが私の役目です。アカデミーに毎回参加するたびに、絶対確実に自分が強くなっている、いままでなかった解決策が自分のなかからわきあがってくるのを感じます。自分には、がまんしてがんばりすぎてしまう傾向があるけれど、「口にする」ことで誰かが助けてくれる。お互いが「なぜその活動をやっているのか」に着目して聞く、だから、弱みも出し合えるのだと思います。新しく参加した人たちはぜひ今後の自分に期待して欲しいと思います。(談)



秋田宇慶さん (復興庁男女共同参画班主査)

個とチームの特性を生かして

今回、最終日に参加させていただきました。そこには、グラスルーツ・アカデミー東北の参加者一人ひとりが、地域課題を捉え、前向きに取り組んでいく、そして、途中で挫折しかかったり、困難に直面したら、仲間と相談し、分かち合い、更に前に進んでいくという姿があり、個とチームの特性を生かして活動に取り組む、良い意味での女性の強さを感じました。

参加者からは、「そんなたいそうなことをしているわけではなく、自分が特別なわけでもない。ただ必要だと感じるからやっているだけ。」という言葉があり、とても印象的でした。



グラスルーツ・アカデミー東北 in 岩手 参加者たちの一言

名前呼びで緊張していたのに、マシュマロのワークでふれあうことで一気に距離が縮まった。

いろんな経験をしている女性たちに出会うことがなかなかなく、さまざまな価値観を知ることができ、選択肢が増えた。

今、自分が混乱のなかにいることに気づいた。これはステップアップの機会。

コミュニケーションが足りておらず、自分のなかでとどめていかに自己完結していることが多いかと感じた。

「責める」の言葉をめぐるワークでの気づきが大きく、すごく納得した。

無理だと思う目標でも、まず失敗を恐れず挑戦してみること、それが成功への一歩になると実感した。

テーマは「チームをつくる」だったけれど、自分がどういう人間、どういう状況かを知る段階のわたしだと思った。

グラスルーツ・アカデミー東北 事務局・問合先



Women's Eye

NPO 法人ウィメンズアイ
宮城県本吉郡南三陸町入谷山の神平10-1
womensacademyintoohoku@gmail.com
担当：石本めぐみ、田浦佐知子



NPO 法人ウィメンズアイは持続可能な開発目標を支援しています

発行：NPO 法人ウィメンズアイ

編集：塩本美紀

デザイン：桜田ゆかり

撮影：古里裕美

イラスト：栗林美知子



この事業は、特定非営利活動法人JEN（ジェン）の協力により開催されました。

JENとは：世界各地で紛争や自然災害などにより厳しい状況にある人びとへ、緊急から復興の各段階できめ細やかな支援活動を展開する国際NGO。岩手・宮城・福島県では現地の団体とパートナーシップを組み、女性や若者、子ども等を支援する。